

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-222852

(P2000-222852A)

(43)公開日 平成12年8月11日 (2000.8.11)

(51)Int.Cl.⁷

G 11 B 23/03
23/50

識別記号

6 0 4

F I

G 11 B 23/03
23/50

テマコード(参考)

6 0 4 H
C

審査請求 未請求 請求項の数 6 OL (全 9 頁)

(21)出願番号

特願平11-25241

(22)出願日

平成11年2月2日 (1999.2.2)

(71)出願人 000002185

ソニー株式会社

東京都品川区北品川6丁目7番35号

(72)発明者 森 秀則

東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ

ー株式会社内

(74)代理人 100067736

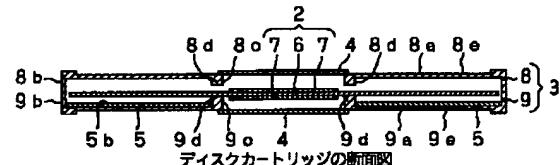
弁理士 小池 晃 (外2名)

(54)【発明の名称】 ディスクカートリッジ

(57)【要約】

【課題】 カートリッジ本体内に侵入した微細な塵埃を効果的に捕集する。

【解決手段】 ディスク2を回転自在に収納したカートリッジ本体3の内面側で、ディスク2の主面と対向する位置に、集塵シート5をディスク2から離間して配設する。ディスク2の回転によって生じる空気流に含まれる微細な塵埃を、大きな面積を有する集塵シート5によって捕集する。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ディスクドライブ装置に対して着脱自在に用いられ、円盤状記録媒体と、この円盤状記録媒体を収納するカートリッジ本体とを備えるディスクカートリッジにおいて、

上記カートリッジ本体には、その内面側で上記円盤状記録媒体の正面と対向する位置に、当該円盤状記録媒体の回転によって生じる空気流に含まれる塵埃を捕集する集塵シートが当該円盤状記録媒体から離間して配設されていることを特徴とするディスクカートリッジ。

【請求項2】 上記集塵シートは、粘着性を有する粘着シートであることを特徴とする請求項1記載のディスクカートリッジ。

【請求項3】 上記集塵シートは、帯電性を有する帯電シートであることを特徴とする請求項1記載のディスクカートリッジ。

【請求項4】 上記カートリッジ本体は、その内面側に、上記円盤状記録媒体に当接しない高さを有し、且つ当該カートリッジ本体の中央部から放射状に形成され、当該カートリッジ本体の内部に発生する空気流を制御する空気流制御部を備えることを特徴とする請求項1記載のディスクカートリッジ。

【請求項5】 上記空気流制御部は、カートリッジ本体内的空気流を所定の部位に集中させるとともに、上記空気流に含まれる塵埃を捕集するフィルタ手段が、上記部位に配設されていることを特徴とする請求項4記載のディスクカートリッジ。

【請求項6】 ディスクドライブ装置に対して着脱自在に用いられ、円盤状記録媒体と、この円盤状記録媒体を収納するカートリッジ本体とを備えるディスクカートリッジにおいて、

上記カートリッジ本体は、帯電性材料によって形成されるとともに、外方に臨む部位に帯電防止処理を施されたことを特徴とするディスクカートリッジ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、情報処理装置等に用いられる磁気ディスク、光磁気ディスク等の円盤状記録媒体を回転自在に収納したディスクカートリッジに関し、さらに詳しくは内部に塵埃を捕集する手段が備えられたディスクカートリッジに関する。

【0002】

【従来の技術】 ディスクカートリッジは、情報信号等の記録及び/又は再生（以下、記録再生という。）が行われる磁気ディスクや光磁気ディスク等の円盤状記録媒体（以下、ディスクという。）をカートリッジ本体に回転自在に収納する。また、ディスクカートリッジは、例えばコンピュータ等の情報処理装置に外部記憶装置として備えられるディスクドライブ装置等の記録再生装置に対して着脱自在に用いられる。

【0003】 磁気ディスクや光磁気ディスク等のディスクは、信号読取面に傷が生じたり、塵埃や指紋等の汚れが付着すると、記録信号の正常な記録再生を行うことが困難となる。そこで、ディスクカートリッジは、カートリッジ本体内にディスクを収納することによって、このディスクを記録再生装置に対して着脱自在に用いることを可能とするとともに、信号読取面に傷が生じたり、指紋等の汚れが付着することを防止していた。

【0004】 また、従来のディスクカートリッジは、ディスク表面及びカートリッジ本体に帯電防止処理を施したり、カートリッジ本体内に塵埃を捕集するフィルタ手段を備えることによって、信号読取面に塵埃が付着することを防止している。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、磁気記録及び光磁気記録等の分野においては、記録再生装置の小型化・大容量化に伴って高記録密度化が進められている。これにより、ディスクに記録する記録信号の物理的な大きさは、微小化の一途を辿っている。そして、記録再生装置は、微小な記録信号を、ディスクに対して正確に記録再生することが益々重要となってきている。

【0006】 記録再生装置においては、記録信号が微小化するにつれて、ディスクの信号読取面に付着した塵埃等の大きさに対する許容量が小さくなり、極く小さな汚れや傷によっても正確な記録再生動作が困難となってしまう。換言すると、記録再生装置においては、高記録密度化を進めることにより、従来から信号読取面への付着防止の対象とされていた塵埃等と比較して、さらに微細な塵埃等によっても記録再生エラーが生じてしまうといった問題が生じる。

【0007】 従来のディスクカートリッジは、上述したような微細な塵埃を信号読取面への付着防止の対象としていなかったために、カートリッジ本体内から、これら微細な塵埃を十分に除去することができなかった。したがって、従来のディスクカートリッジは、高記録密度化に対応した記録再生動作を、正確且つ安定して行うことが困難であった。

【0008】 そこで、本発明は、カートリッジ本体に、塵埃を捕集する集塵シートを、円盤状記録媒体の正面と対向する位置に、この円盤状記録媒体から離間して配設することによって、カートリッジ本体内に侵入した微細な塵埃を効果的に捕集するディスクカートリッジを提供することを目的とする。また、本発明は、カートリッジ本体を帯電性材料によって形成するとともに、外方に臨む部位に帯電防止処理を施すことによって、カートリッジ本体内に侵入した微細な塵埃を効果的に捕集するディスクカートリッジを提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】 上述した目的を達成するために、本発明に係るディスクカートリッジは、ディス

クドライブ装置に対して着脱自在に用いられ、円盤状記録媒体と、この円盤状記録媒体を収納するカートリッジ本体とを備える。そして、上記カートリッジ本体には、その内面側で上記円盤状記録媒体の正面と対向する位置に、当該円盤状記録媒体の回転によって生じる空気流に含まれる塵埃を捕集する集塵シートが当該円盤状記録媒体から離間して配設されてなる。

【0010】以上のように構成されたディスクカートリッジは、集塵シートが円盤状記録媒体の正面と対向する位置に、この円盤状記録媒体から離間して配設されたことによって、微細な塵埃を効果的に捕集することができる。

【0011】また、本発明に係るディスクカートリッジは、ディスクドライブ装置に対して着脱自在に用いられ、円盤状記録媒体と、この円盤状記録媒体を収納するカートリッジ本体とを備える。そして、上記カートリッジ本体は、帯電性材料によって形成されるとともに、外方に臨む部位に帯電防止処理を施されてなる。

【0012】以上のように構成されたディスクカートリッジは、カートリッジ本体が帯電性材料によって形成されていることから、円盤状記録媒体を収納した内面側で、微細な塵埃を効果的に捕集することができる。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について、図面を参照しながら詳細に説明する。以下では、図1及び図2に示すようなディスクカートリッジ1について説明することとする。ディスクカートリッジ1は、ディスク2と、このディスク2を回転自在に収納するカートリッジ本体3と、シャッタ部材4と、集塵シート5とにより構成され、ディスクドライブ装置（図示せず）に着脱自在に用いられる。なお、以下のディスクカートリッジ1の説明においては、ディスクドライブ装置への装填側を先端側を称するものとする。

【0014】ディスク2は、ディスク基板6と、このディスク基板6の中心部に軸を合わせて取り付けられた金属製のハブ7とにより構成される。ディスク基板6は、信号記録層を備えて略円盤状に形成されており、ディスクドライブ装置によって、この信号記録層に対して記録信号の記録再生が行われる。なお、以下の説明において、ディスク2は、ディスク基板6の両正面が信号記録面とされた、いわゆる両面記録式のディスクとする。ただし、本発明は、ディスク基板6の一方の正面が信号記録面とされた、いわゆる片面記録式のディスクであってもよい。

【0015】また、本発明においては、ディスク2に対する記録信号の記録再生方式に限定されるものではない。ディスク2は、例えば、信号記録層として磁気記録層を備えて形成され、この磁気記録層に対して磁界を印加することによって記録信号を記録し、磁気記録層に記録された磁界の変化を読み取ることによって記録信号を

再生する、いわゆる磁気記録方式により記録信号を記録再生するものであってもよい。

【0016】また、ディスク2は、信号記録層として光磁気記録層を備えて形成され、この光磁気記録層に対して光を照射するとともに磁界を印加することによって記録信号を記録し、光磁気記録層に対して照射した光の戻り光を読み取ることによって記録信号を再生する、いわゆる光磁気記録方式により記録信号を記録再生するものであってもよい。

【0017】ディスク2は、相変化材料により形成された信号記録層を備えて形成され、この信号記録層に対して強度の異なる光を照射することによって記録信号の記録再生を行い、いわゆる相変化記録方式により記録信号を記録再生するものであってもよい。

【0018】また、ディスク2は、信号記録層に物理的な形状変化であるピットが形成されて構成され、このピットに対して照射した光の戻り光を読み取ることによって記録信号を再生する、再生専用の光ディスクであってもよい。

【0019】カートリッジ本体3は、例えばABS樹脂等の合成樹脂を材料として成形された上ハーフ8と下ハーフ9とが組み合わされており、全体略薄箱形状を呈して構成されている。上ハーフ8と下ハーフ9とは、それぞれ正面8a, 9aから外周壁8b, 9bが一体に立ち上がり形成されて、略矩形浅皿状に成形されてなる。

【0020】また、上ハーフ8と下ハーフ9とには、その内面側のコーナ部に、ディスク2を収納する空間を構成する円弧状のディスク収納用立壁（図示せず）が形成されている。ディスク収納用立壁は、上ハーフ8及び下ハーフ9からそれぞれ一体に立ち上がり形成されるとともに、ディスク2の外周部を取り巻くように形成されている。これにより、ディスクカートリッジ1においては、ディスク収納用立壁の内側にディスク収納空間部が構成されてなり、このディスク収納空間部に、ディスク2を位置ずれすことなく回転自在となるように収納している。

【0021】また、上ハーフ8と下ハーフ9とには、中央部から先端側にむけて、それぞれ開口部8c, 9cを有している。開口部8c, 9cは、それぞれディスク2のハブ7よりもやや大とされる径を有するチャッキング用開口部と、このチャッキング用開口部に連設されてディスク2の径方向に先端側へと開口する記録再生用開口部とにより構成される。

【0022】また、上ハーフ8と下ハーフ9とには、内面側の中央部、すなわち開口部8c, 9cのチャッキング用開口部近傍に位置して、それぞれ一体に立ち上がり形成されたディスク支持用立壁8d, 9dが形成されている。ディスク支持用立壁8d, 9dは、ディスク基板6を介して互いに向かい合うように形成されている。ディスク支持用立壁8d, 9dは、ディスク2がカートリ

ッジ本体3の内部で回転自在となるように、ディスク基板6に対して僅かな隙間を有する高さに形成されている。また、ディスク支持用立壁8d, 9dは、図2に示すように、非使用時には一方がディスク基板6に当接することによってディスク2を支持し、ディスク2の主面が他の各部材に接触することを防止している。なお、ディスクカートリッジ1においては、ディスク基板6のディスク支持用立壁8d, 9dが当接する位置には、記録信号が記録されることがない。

【0023】さらに、上ハーフ8と下ハーフ9とには、それぞれ記録再生用開口部が形成された先端側の主面8a, 9a上に、シャッタ部材4の厚みと略同等の高さを有するシャッタ摺動用凹部8e, 9eが形成されている。

【0024】シャッタ部材4は、例えば金属薄板にプレス加工を施して略コ字状に形成され、カートリッジ本体3の先端側の側面を挟んで上ハーフ8及び下ハーフ9に形成された開口部8c, 9cを覆うように配設される。シャッタ部材4は、開口部8c, 9cを覆うに十分な幅を有して形成されており、図1及び図2に示すように、開口部8c, 9cを完全に閉蓋することができる。

【0025】ディスクカートリッジ1は、その非使用時において、開口部8c, 9cがシャッタ部材によって完全に閉蓋されることから、ディスク2の信号読取面に傷が生じたり、指紋等の汚れが付着することを防止することができる。

【0026】また、シャッタ部材4は、カートリッジ本体3の先端側の側面に沿って、シャッタ摺動用凹部8e, 9eを摺動自在とされている。そして、シャッタ部材は、ディスクカートリッジ1がディスクドライブ装置に装填された際に、図1において矢印Aに示すように、シャッタ摺動用凹部8e, 9eを摺動し、開口部8c, 9cを開蓋する。

【0027】集塵シート5は、図2に示すように、ディスク2に当接しないように、その厚みを調節されて、下ハーフ9の内面側でディスク2の主面と対向する位置に、ディスク2から離間して配設されている。また、集塵シート5は、図3に示すように、ディスク2と略同等の外径を有する円盤状に形成されるとともに、開口部9cと略同形状を有する切欠部5aが形成されてなる。さらに、集塵シート5は、ディスク2の主面と対向する側の主面5bに粘着性を有する材料が塗布されてなる。

【0028】集塵シート5は、例えば、感圧性接着剤等の各種接着剤を塗布したポリイミド等の樹脂シートや、ナイロン、ポリエチレン、レーヨン等の不織布であればよい。また、集塵シート5は、適度な硬度を有するゲル状のシートであってよい。

【0029】以上のように構成されたディスクカートリッジ1は、ディスク2に対して記録信号を記録再生する際には、ディスクドライブ装置に装填される。このと

き、ディスクカートリッジ1は、先ず、ディスクドライブ装置に設けられたシャッタ開蓋手段（図示せず）によって、図4において矢印Cで示すように、シャッタ部材4を開蓋される。

【0030】次に、開口部9cのチャッキング用開口部から、ディスクドライブ装置の回転駆動機構に連結されたターンテーブル20がカートリッジ本体3の内部に進入するとともに、開口部8c及び開口部9cの記録再生用開口部から、ディスクドライブ装置の記録再生ヘッド21がカートリッジ本体3の内部に進入する。

【0031】ターンテーブル20は、図5に示すように、ディスク2のハブ7に吸着固定（チャッキング）するとともに、回転駆動機構によって回転駆動される。これにより、ディスク2は、図4において矢印Dで示すように、上ハーフ8側からみて時計回りに回転駆動される。

【0032】記録再生ヘッド21は、図4において矢印Eで示すように、カートリッジ本体3に設けられた記録再生用開口部に沿って、ディスク2の径方向に移動自在とされている。記録再生ヘッド21は、所定の回転数で回転駆動されるディスク2の信号記録層に対して、記録信号の記録再生を行う。なお、記録再生ヘッド21は、光ディスク2に対して行う記録再生方式に応じて異なる構成とされる。

【0033】例えば、ディスク2に対して磁気記録方式により記録再生を行う場合には、記録再生ヘッド21には、少なくとも1つ以上の磁気ヘッドを備えて構成される。そして、この磁気ヘッドがディスク2の信号記録層に対して磁界を印加したり、信号記録層に記録された磁界の変化を磁気ヘッドによって読み取ることにより、記録信号の記録再生を行う。

【0034】また、ディスク2に対して光磁気記録方式により記録再生を行う場合には、記録再生ヘッド21には、少なくとも1つ以上の光学ヘッドと、磁気ヘッドとを備えて構成される。そして、光学ヘッドによってディスク2の特定の位置に光を照射し、信号記録層の温度を上昇させるとともに、磁気ヘッドによって磁界を印加することによって、信号記録層に記録信号を記録する。また、光学ヘッドによって信号記録層に光を照射し、反射して戻ってきた戻り光を検出することによって記録信号を再生する。

【0035】なお、本発明においては、ディスク2に対して行う記録再生方式に限定されるものではないため、ディスクドライブ装置の記録再生動作に関する詳細な説明を省略する。

【0036】ところで、ディスクドライブ装置は、ディスク2の信号読取面に傷が生じていたり、塵埃や指紋等の汚れが付着している場合に、記録再生ヘッド21によって照射される光、あるいは印加される磁界が正しく信号記録層に届かなかったり、記録再生ヘッド21に備え

られた磁気ヘッド及び／又は光学ヘッドが破損する等して、正常な記録再生動作を行うことができない虞がある。そこで、ディスクカートリッジ1においては、上述したように、シャッタ部材4を備えることによって、ディスク2の信号読取面に傷が生じたり、指紋等の汚れが付着したりすることを防止している。

【0037】ところが、ディスクカートリッジ1は、ディスクドライブ装置に装填されて記録再生が行われる際に、シャッタ部材4を開蓋させる必要がある。このとき、ディスクカートリッジ1は、図6に示すように、空気中に含まれる塵埃30がカートリッジ本体3の内部に侵入し、ディスク基板6上に付着してしまう虞がある。

【0038】そこで、ディスクカートリッジ1は、カートリッジ本体3の内部に侵入したり、ディスク基板6上に付着した塵埃30を、下ハーフ9に配設された集塵シート5によって捕集することができる構成とされている。以下では、塵埃30が捕集される過程を説明する。

【0039】ディスクカートリッジ1においては、記録再生が行われる際に、上述したようにディスク2を回転駆動される。これにより、カートリッジ本体3の内部には、ディスク2の回転とともに回転移動する空気流が発生する。ディスク基板6上に付着している塵埃30は、この空気流による風圧、あるいは回転するディスク2の遠心力によって、図7に示すように、ディスク基板6から離脱してカートリッジ本体3の内部に飛散する。また、開口部8c, 9cからカートリッジ本体3内に侵入した塵埃30も、カートリッジ本体3の内部に発生した空気流に乗って飛散する。

【0040】そして、塵埃30は、カートリッジ本体3の内部を飛散するうちに、下ハーフ9に配設された集塵シート5の正面5bに接触する。集塵シート5は、正面5bが粘着性を有していることによって、接触した塵埃30を捕集する。

【0041】ディスクカートリッジ1においては、以上説明したように、集塵シート5が塵埃30を捕集することから、カートリッジ本体3の内部を清浄に保つことができる。したがって、ディスクカートリッジ1は、ディスクドライブ装置によって、ディスク2に対して確実且つ安定した記録再生を行うことができる。

【0042】また、ディスクカートリッジ1においては、集塵シート5が粘着性を有していることによって、捕集した塵埃30が集塵シート5から再び離脱してしまうことがなく、ディスク基板6への再付着を防止することができる。そのため、ディスクカートリッジ1においては、カートリッジ本体3の内部を常に清浄な状態に保つことができる。

【0043】さらに、ディスクカートリッジ1は、集塵シート5がディスク2の正面と対向する位置に略円盤状に配設されていることから、ディスク2とともに回転移動する空気流に含まれる塵埃30を、大きな面積で効果

的・効率的に捕集することができる。

【0044】また、ディスクカートリッジ1においては、集塵シート5の粘着性によって塵埃30を捕集する構成とされていることから、従来のディスクカートリッジに備えられていたフィルタ手段が捕集の対象としていた塵埃と比較して、さらに微細な塵埃をも効果的に捕集することができる。したがって、ディスクカートリッジ1は、高記録密度化に対応して、ディスク2に記録される記録信号が微小化した場合でも、微細な塵埃によって記録再生エラーが生じてしまうといったことを防止することができ、記録再生時の信頼性を向上させることができる。

【0045】さらに、ディスクカートリッジ1においては、集塵シート5がディスク2に接触することなく、ディスク基板6上に付着した塵埃を捕集することができる。したがって、ディスクカートリッジ1は、ディスク2の信号読取面を傷つけてしまうことがなく、確実且つ安定して記録信号の記録再生を行うことができる。

【0046】なお、ディスクカートリッジ1においては、ディスク基板6の正面に、帯電防止処理を施しておくことが望ましい。これにより、ディスクカートリッジ1においては、ディスク基板6上に付着した塵埃30が、このディスク基板6から離脱しやすくなり、集塵シート5の集塵効果を向上させることができる。

【0047】また、ディスクカートリッジ1には、図8及び図9で示すように、空気流制御部40を備えてもよい。空気流制御部40は、例えば、下ハーフ9と同一又は同等の材料によって略平板状に形成され、ディスク支持用立壁9dからディスク2の外周部に向けて放射状に少なくとも1つ以上配設される。また、空気流制御部40は、ディスク2に当接しない高さに形成される。なお、図8においては、空気流制御部40を3つ備える例を図示することとする。

【0048】ディスクカートリッジ1は、空気流制御部40を備えることによって、ディスク2がディスクドライブ装置によって回転駆動された際に、カートリッジ本体3内の空気流に乱れを発生させることができる。これにより、ディスク基板6上に付着した塵埃30は、空気流に生じた乱れによって大きな風圧を受け、このディスク基板6から離脱しやすくなる。したがって、ディスクカートリッジ1は、空気流制御部40が配設されることによって、集塵シート5の集塵効果を向上させることができる。

【0049】なお、空気流制御部40は、図10に示すように、例えば、ディスク2の回転方向に渦を巻くように、所定の曲率を有して配設してもよい。これにより、カートリッジ本体3内の空気流は、空気流制御部40による乱れが生じるとともに、空気流制御部40によってディスク収納空間部の外縁部へと集められるように流れ、この場合に、ディスクカートリッジ1には、この空

気流が集められる位置、すなわち、ディスク収納空間部の外縁部で各空気流制御部40の近傍に、フィルタ手段41を配設することが望ましい。

【0050】フィルタ手段41は、例えば、集塵シート5と同様な粘着性を有する材料、又は不織布等を、下ハーフ9の正面9bと略垂直となるように、又は下ハーフ9の正面9bに対して所定の角度をなすように傾けて配設することによって構成される。これにより、ディスクカートリッジ1は、集塵シート5によってカートリッジ本体3内の塵埃30を捕集することができるとともに、空気流制御部40によって空気流が集められる位置にフィルタ手段を備えることによって、さらに効果的に塵埃30を捕集することができる。

【0051】なお、上述の説明においては、集塵シート5、空気流制御部40及びフィルタ手段41が、各々下ハーフ9側に配設されるとしたが、本発明は斯かる構成に限定されるものではない。ディスクカートリッジ1においては、集塵シート5、空気流制御部40及びフィルタ手段41を、上ハーフ8側に配設してもよいし、上ハーフ8側と下ハーフ9側との両方に配設してもよい。ディスクカートリッジ1においては、集塵シート5、空気流制御部40及びフィルタ手段41を上ハーフ8側と下ハーフ9側との両方に配設することによって、集塵効果を向上させることができる。

【0052】また、集塵シート5は、その正面5bが粘着性を有することによって塵埃30を捕集するとしたが、本発明は斯かる構成に限定されるものではない。集塵シート5は、例えば、帯電性を有する材料によって形成され、静電力によって塵埃30を捕集する構成としてもよい。これにより、集塵シート5は、粘着性を有する場合と同様な集塵効果を得ることができる。

【0053】また、ディスクカートリッジ1は、カートリッジ本体3が帯電性を有する材料によって形成され、集塵シート5を備えない構成とされてもよい。これにより、ディスクカートリッジ1は、カートリッジ本体3のディスク2を収納する内面側が、上述した帯電性を有する材料によって形成された場合の集塵シート5と同様の効果を示すことから、同様な集塵効果を得ることができる。

【0054】この場合に、具体的には、例えば、カートリッジ本体3をABS樹脂、ポリスチレン、ポリカーボネート等の樹脂材料によって形成すればよい。また、カートリッジ本体3は、スチレン樹脂、ポリエチレン、エチルセルロース等の表面抵抗値の大きな材料によって形成されたシートを貼付することによっても、積極的に帯電性を付与することができる。

【0055】また、この場合に、カートリッジ本体3は、外側に帯電防止処理を施すことが望ましい。これにより、カートリッジ本体3の外側に、空気中に含まれる塵埃が付着することを防止することができる。帯電

防止処理としては、例えば、カートリッジ本体3の外側に帯電防止剤を塗布したり、Ag、Cu、C等の導電性材料の微粒子をカートリッジ本体3の外側の樹脂中に混入させればよい。また、カートリッジ本体3を導電性を有する樹脂によって形成し、このカートリッジ本体3の内面側に上述したような表面抵抗値の大きな材料によって形成されたシートを貼付してもよい。さらに、2色成形技術を利用して、カートリッジ本体3の外側を導電性を有する樹脂で形成し、内面側を非導電性を有する樹脂によって形成してもよい。

【0056】また、上述した説明においては、ディスクカートリッジ1は、ディスク2を両面記録式のディスクとして構成し、上ハーフ8と下ハーフ9とがそれぞれ開口部8c、9cを備えるとしたが、ディスクドライブ装置のターンテーブル20及び記録再生ヘッド21をカートリッジ本体3内に進入させるための開口部は、上ハーフ8及び下ハーフ9のうち、少なくとも一方に備えられていればよい。

【0057】また、上述した説明において、ディスク2は、ディスク基板6とハブ7とにより構成されるとしたが、例えば、いわゆるCD(Compact Disc)のように、ディスク基板6の中心部に穿孔されたセンターホールを有し、ハブ7を備えずに構成されたものであってもよい。この場合には、ディスクドライブ装置のターンテーブル20がハブ7ではなく、センターホールに対してチャッキングする構成とされる。

【0058】

【発明の効果】以上説明したように、本発明に係るディスクカートリッジは、円盤状記録媒体の回転によって生じる空気流に含まれる塵埃を捕集する集塵シートが、カートリッジ本体の内面側で、この円盤状記録媒体の正面と対向する位置に、円盤状記録媒体から離間して配設されてなる。これにより、ディスクカートリッジは、カートリッジ本体の内部に侵入した微細な塵埃を効果的且つ効率的に捕集することができる。そのため、ディスクカートリッジは、高記録密度化に対応して記録信号が微小化したディスクに対して、確実に且つ安定して記録再生を行うことができるものとなる。また、ディスクカートリッジは、集塵シートがディスクに接触することなく塵埃を捕集することから、記録再生時の信頼性を向上させることができる。さらに、ディスクカートリッジは、高い集塵効果を有することから、屋外等の悪環境下においても確実な記録再生を行うことができるものとなる。

【0059】また、本発明に係るディスクカートリッジは、カートリッジ本体が帯電性材料によって形成されるとともに、このカートリッジ本体の外方に臨む部位に帯電防止処理が施されてなる。これにより、ディスクカートリッジは、カートリッジ本体の内部に侵入した微細な塵埃を効果的且つ効率的に捕集することができる。そのため、ディスクカートリッジは、高記録密度化に対応し

て記録信号が微小化したディスクに対して、確実に且つ安定して記録再生を行うことができるものとなる。また、ディスクカートリッジは、集塵シートがディスクに接触することなく塵埃を捕集することから、記録再生時の信頼性を向上させることができる。さらに、ディスクカートリッジは、高い集塵効果を有することから、屋外等の悪環境下においても確実な記録再生を行うことができるものとなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るディスクカートリッジを示す平面図である。

【図2】同ディスクカートリッジを示す図1におけるB-B断面図である。

【図3】同ディスクカートリッジの下ハーフを示す概略平面図である。

【図4】同ディスクカートリッジの記録再生時における平面図である。

【図5】同ディスクカートリッジの記録再生時を示す図4におけるF-F断面図である。

【図6】同ディスクカートリッジの非使用時における要部拡大断面図である。

【図7】同ディスクカートリッジの記録再生時における要部拡大断面図である。

【図8】本発明に係る別のディスクカートリッジの下ハーフを示す概略平面図である。

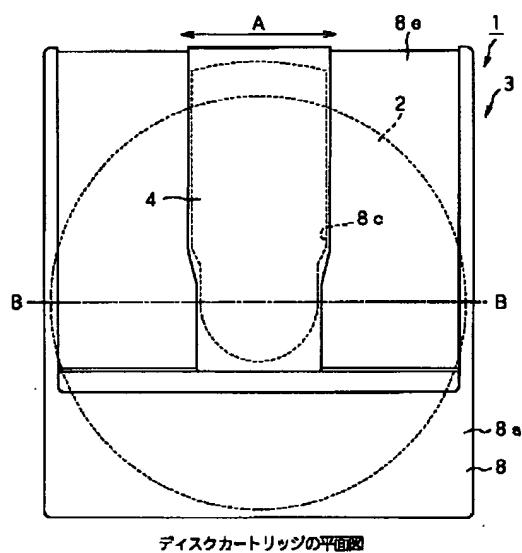
【図9】同ディスクカートリッジの記録再生時を示す図8におけるG-G断面図である。

【図10】本発明に係るさらに別のディスクカートリッジの下ハーフを示す概略平面図である。

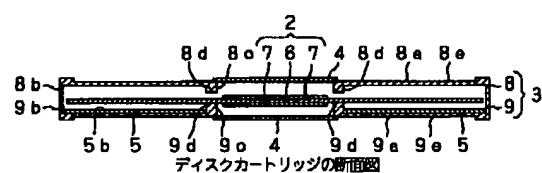
【符号の説明】

1 ディスクカートリッジ、2 ディスク、3 カートリッジ本体、4 シャッタ部材、5 集塵シート、8 上ハーフ、9 下ハーフ

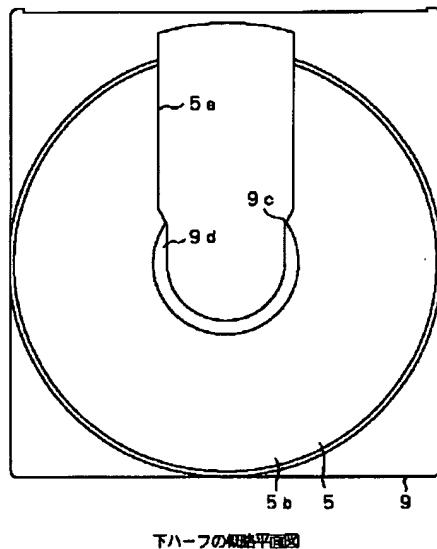
【図1】



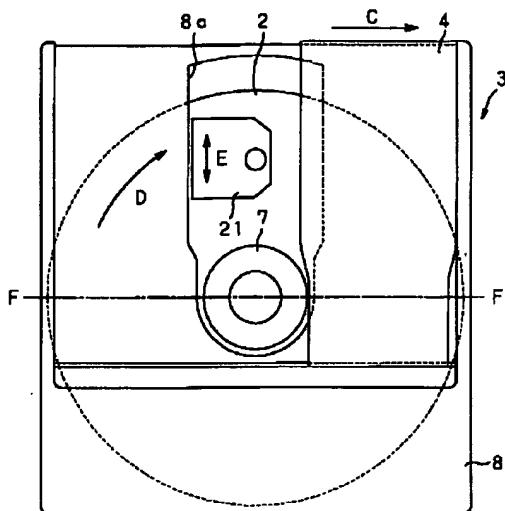
【図2】



【図3】

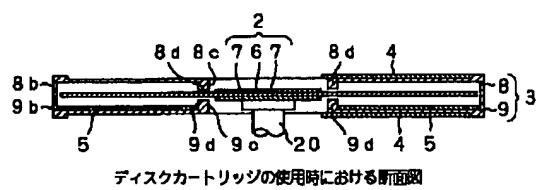


【図4】



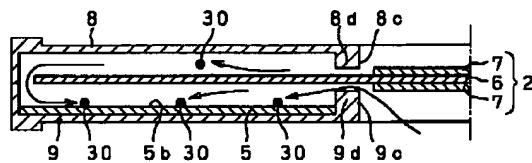
ディスクカートリッジの使用時における平面図

【図5】



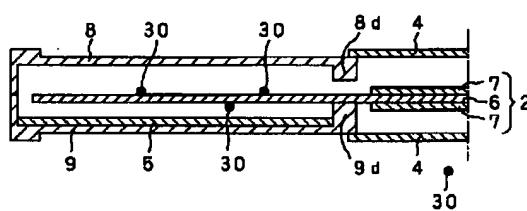
ディスクカートリッジの使用時における断面図

【図7】

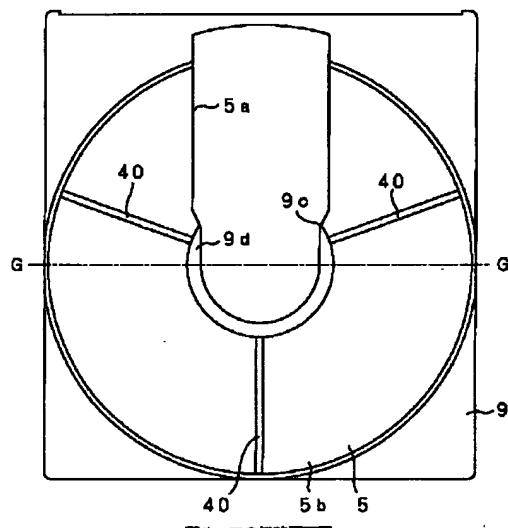


使用時におけるディスクカートリッジの様子を示す図

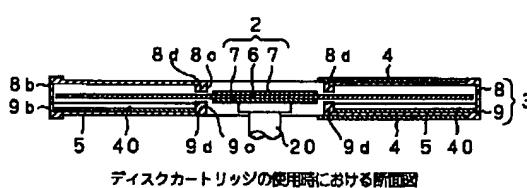
【図8】



非使用時におけるディスクカートリッジの様子を示す図

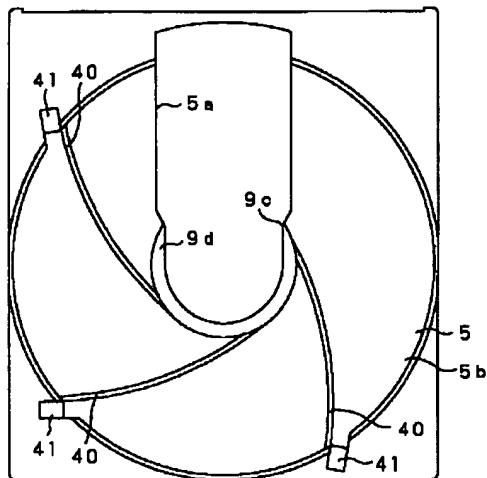


下ハーフの構造平面図



ディスクカートリッジの使用時における断面図

【図10】



下ハーフの断面平図

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

BLACK BORDERS

IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

FADED TEXT OR DRAWING

BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

SKEWED/SLANTED IMAGES

COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

GRAY SCALE DOCUMENTS

LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.